

## 第 38 回大分 NST 研究会報告

2024 年 6 月 29 日に大分市ホルトホールにて第 38 回大分 NST 研究会を開催させていただきました。今回のテーマは、「経管栄養を見直す」として 170 名超の参加者とともに、栄養療法の投与方法である腸を活用する経管栄養を主題に議論しました。

一般演題では、大分岡病院の小椋幹記先生と長尾智己先生のもと、別府医療センター幸邦子先生、臼杵市医師会立コスモス病院矢野永子先生、大分大学医学部附属病院上野希望先生、中津市立中津市民病院末永朋子先生の 4 名にご発表いただきました。多職種からの演題に 1 つ 1 つ丁寧に議論ができ、今後の臨床に有意義なものとなりました。

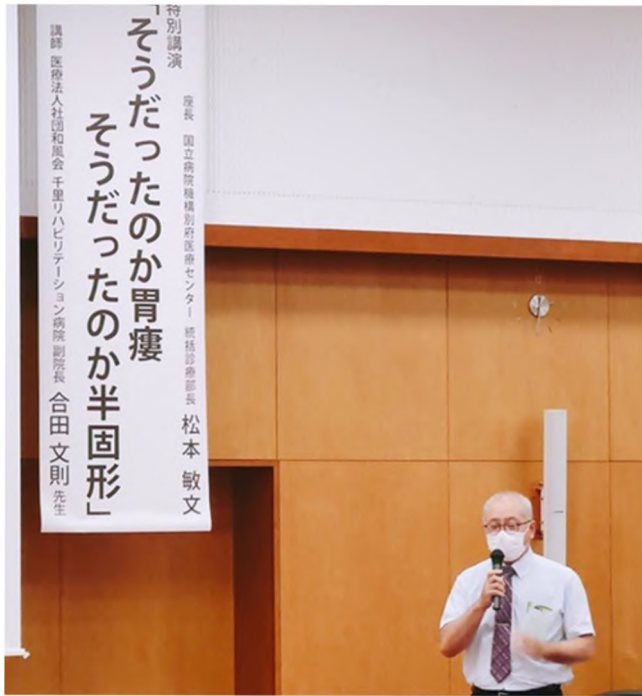
次に本研究会では初の企画とお聞きしたパネルディスカッションを企画しました。「経口摂取が困難な患者への対応をどう考えるか」として症例検討を、企画者である小生が進行する形で 5 名のパネリストの先生とともに議論をいたしました。坂ノ市病院菅聡先生、大分大学医学部附属病院柴田智隆先生、南海医療センター成松聖先生、大分岡病院井上真先生、臼杵市医師会立コスモス病院木本ちはる先生には、事前に症例提示は行わずにご自身の経験や直感でご発言いただくこととして、緊張感あるご発言をお願いしました。ご協力いただき、ありがとうございました。お一人お一人が異なる職種でしたので、多角的な視点からご意見が集まりましたことは貴重な討論であったものと考えます。また、パネリストや参加者の方々から診療にあたる際に患者の意思を尊重しながら治療方針の決定を行うことの重要性の指摘があり、医療従事者が心がける姿勢を再認識できたセッションでした。

基調講演は、大分岡病院の佐藤博先生の座長のもと、大塚製薬工場研究開発センター中村美佳先生より「術後におけるアミノ酸投与の重要性」と題して、リアルワールドデータと動物実験結果の知見をご発表いただきました。術後にタンパク合成は低下していないとの根拠からアミノ酸投与は有用である可能性が高いことをご教示いただきました。術後管理の見直しとなる有用な情報共有となりました。

特別講演は、千里リハビリテーション病院副院長 合田文則先生より「そうだったのか胃瘻、そうだったのか半固形」のタイトルでご講演いただきました。ご自身の多くの科学的根拠に基づき、胃瘻からの半固形化栄養の有用性をご解説いただきました。さらに最近、問題となっている経管栄養の新規格接続コネクタ (ISO80369-3) の変更に関する経緯をご説明いただくとともに、旧規格接続コネクタ (医薬発第 888 号) との使い分けについてご教示いただき参加者全員が今後の臨床現場での診療に大変参考になりました。

座長の労をとっていただきました先生方、演題とご講演いただきました先生方に紙面をお借りして感謝申し上げます。最後に、今回から本研究会が新体制となり開催の準備に新事務局のご指導を仰ぐとともに、共催である株式会社大塚製薬工場には運営におきまして多大なご支援を賜り、無事に盛会裏に終えることができました。ここに深謝申し上げます。多職種が集まり議論する貴重な本研究会がさらなる発展をしていきますよう祈念して報告いたします。

第 38 回大分 NST 研究会当番世話人 別府医療センター松本敏文



坂ノ市病院管聡先生



別府医療センター 幸邦子先生



白杵コスモス病院 矢野永子先生



大分大学医学部附属病院 上野希望先生



中津市民病院 末永朋子先生



特別講演講師 千里リハビリテーション病院 副院長 合田文則先生



別府医療センター松本敏文先生とパネリストの皆様



大分岡病院 佐藤先生



長尾先生



小椋先生

